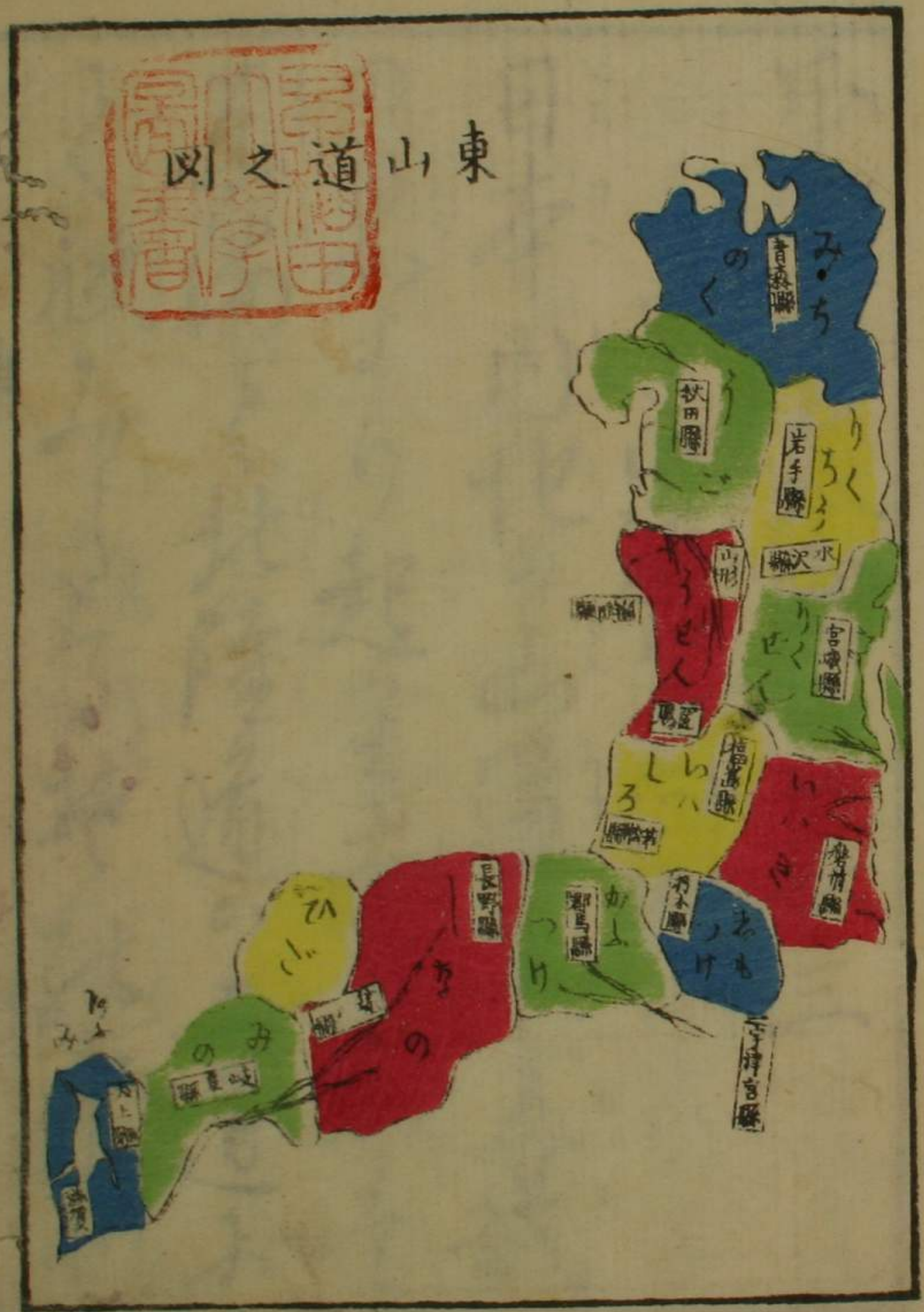


瓜生氏
 日本國畫
 東山道
 三

ル 3
 3604
 3



ル 3
3604
3-



37 7463

瓜生氏日本國畫卷三
 東山道十三國
 日本内地の道より五畿
 の東より起ると南と北を
 東海と北陸道の二道と
 狭みたる地中を



日本國志卷三
險阻の山脈を連り就
の脊中ふさぐに似たり其
屋瓦末ら三方とん浪風
恙き海をふけお
向く長く延びし海原と
一也此迫門を隔てお

先づ第一とて近江とて海を
一國の地を分つ北西の
三方より越前若狭を渡り
丹波山城伊賀伊勢の
六國より包むまきと東を
美濃とお隣り四方と

生の中を環遊の形に環
遊の湖南を狭く水廣く
横中七里於此湖立の地
あり南を二十四里四方に
山々川の由みあつたり
是らこみく琉球一島の

水の面よりたまたま
海内を収支那の西湖を
いふをたまたまこみく
らめやをたまたま湖水を
むく一富士のてまの湧出
しとき同く出来し

日本書紀卷之三十一
そのともや狭き南は北の
もく延びく流きそく又
末より山城より八里宇治川
の流もたつたそく流り八
湖中の名ぬのそく中小竹
生ゆそく是れ亦景は

天皇十二年一夜り湧出
ゆきそくは湖を中小るそ
東と西り地を分ち西を
る方より西は江東は東は
そく名勝の教も東は西を
え教へ奉るそく暇あり

日本書紀卷之三十一

西ノ京ト脊合テ都
の富士の比獻テ山。滋賀縣
花山。滋賀の浦。あまふ
天智天皇。此都の跡ヲ想
えり。京ハ八人。いづる人
流束の道。此結。有たり。み

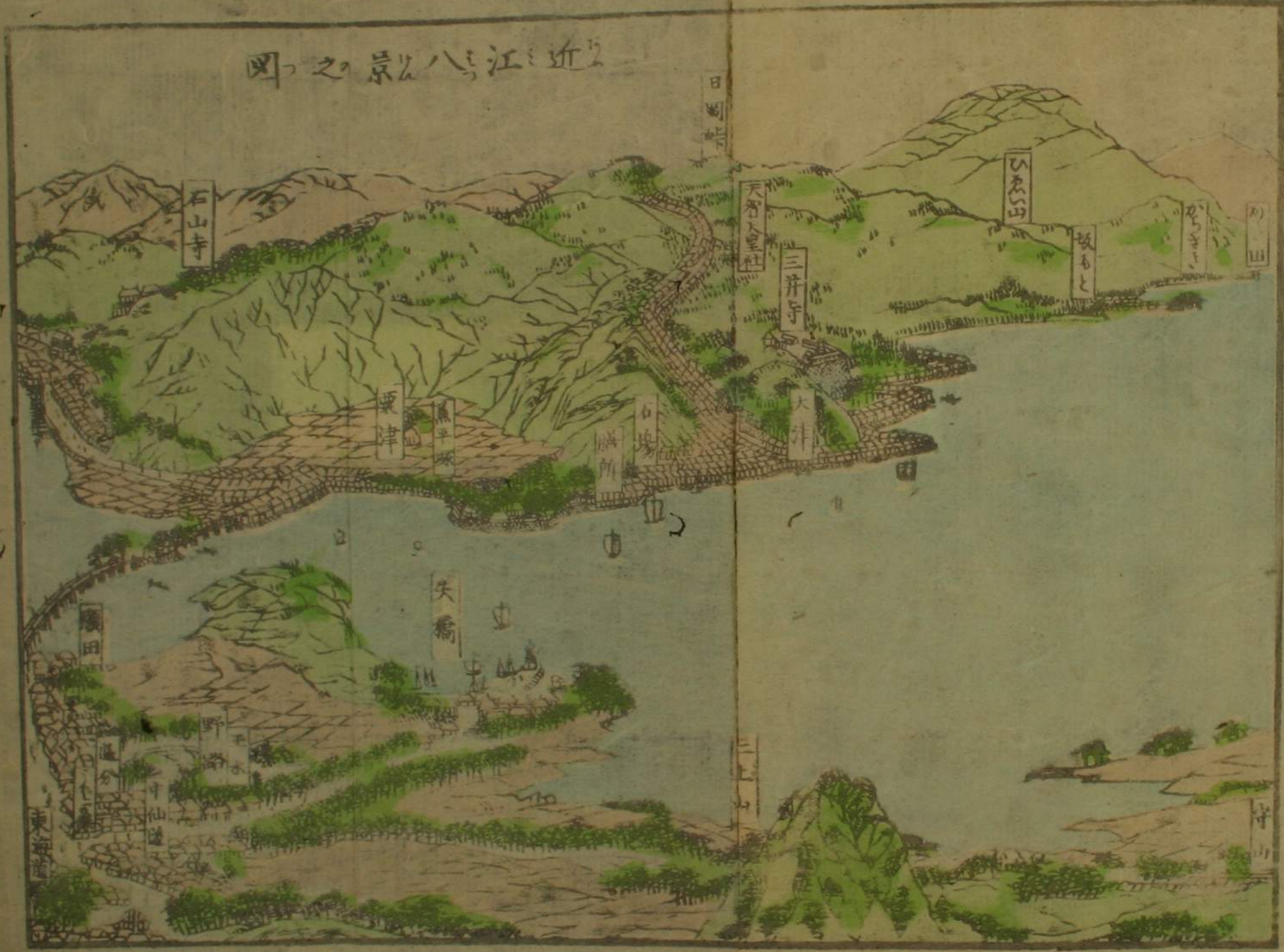
な。君が世。み。逢坂の昔。此。言
の。出。た。り。大津の。宿。の
あまふ。ま。り。く。船。な。り。あ。れ
入。船。や。出。舟。の。絶。え。ぬ。市。中
よ。ま。滋。賀。縣。の。跡。を。ま。る。置。て
あ。ま。ふ。十。二。郡。の。内。西。上。に

路の落賀一郡。東也。江の五
 郡。とを合をそ。爰。松。を
 玉ふ。あ。一。近江の。素。月。新
 清。ま。る。山。や。高。を。ま。あ。一。三
 井。ち。の。入。お。つ。ぐる。鐘。の。聲。後。の
 船。人。生。の。帆。引。て。矢。橋。を。帰。る

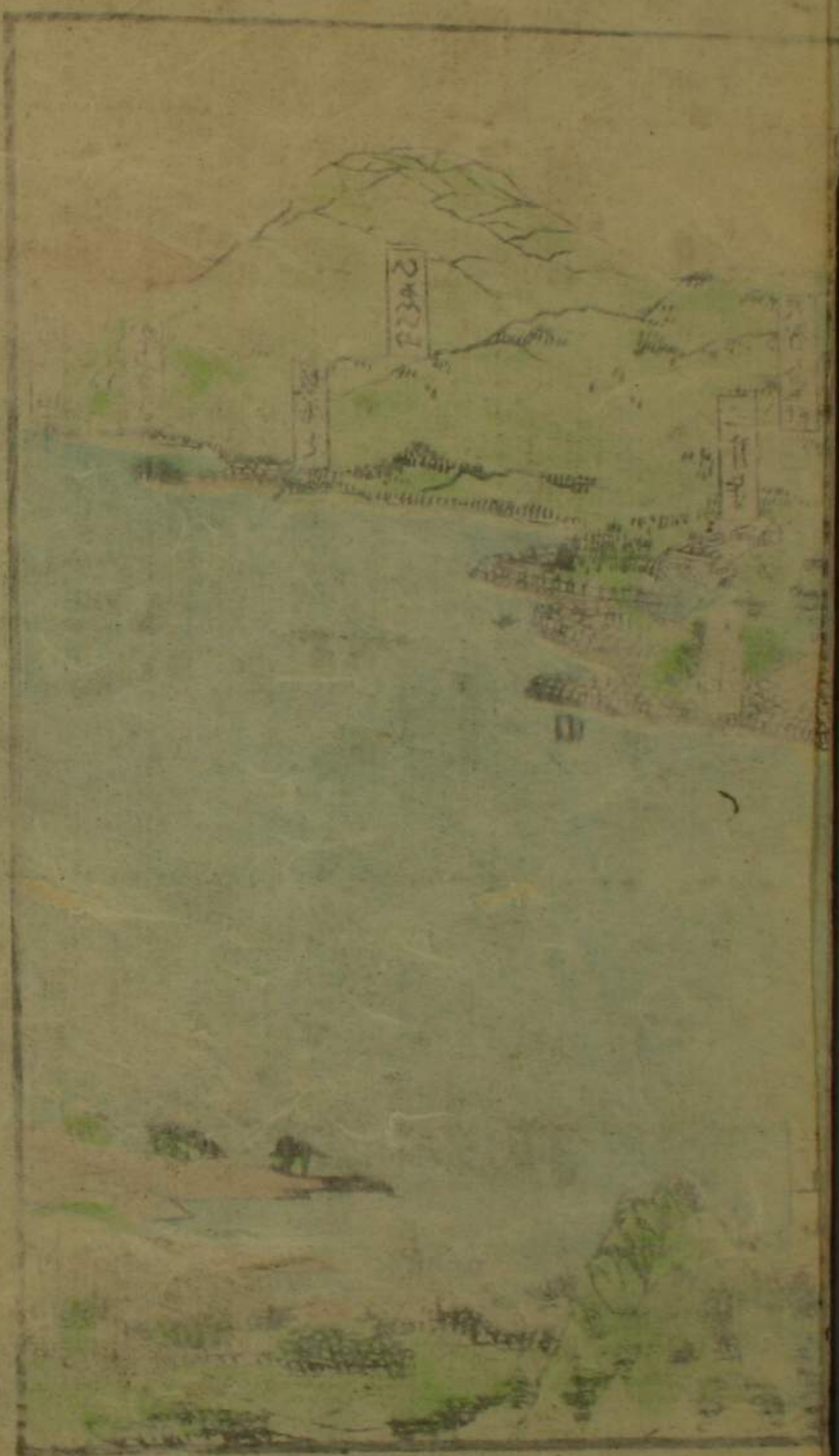
市五八路心



近江八景之圖



玉ふもくし近江の八景八月影
 清きるる山や霧ぞまつめ
 井ちの入おつぐる鐘の音後
 船人出帆引て矢橋を帰る



百千舟波の粟津の雲霞
く。岸に音に林のくとも也
夕日さすて満くの景色をえ
つ渡るふそ。瀬多の長橋
たぐのあまは。比良のそ。相
白くまは。また紅をくき。満風

日本書紀

六

り。おつる堅田此かゝる金也。
春くさいもわうりり小夜更あけく。
淋しみ— さやまきるる産崎さきのね。
らら雨あめのちるちたたるるををささくく。
東ひがしより山やまおほくくまま川がおほ
きき持もち中ちゆうり山やまののささききくく

伊吹のいぶき坂さかりり高たか山やま金かね磨すり石いし。
嶽たけ南みなみより水すい晶しゆう釋しゃく迦かのの嶽たけ。
川がは少すくもも那な沙さ愛え智ち善ぜん利り川がは也なり。
善利ぜんりのの川がはのの湖うみへへ八はち也なりもも口くちらら産い。
根ねととくく湖うみ水みづりり後のちむむおおふふ。
丹に波はのの地ち大おほ上かみ野ののの原はらありありくく。

日本国書

西に高橋一郡と東に江
の愛智川に於て五郡を管
轄して二縣八邑を以て一國と
人口五十三万余年候風土
も自らを安んずりたりと
ありて北を小坂より法々

可くもそとを以て
一産根以南を以て
山の中より所地極
めく潤澤とて五穀一切
富み水陸ともに
の豊はのあまこと日本

才四番目のついでに多く其
民候に化出より稼きたるを
ゆめまことと善を産み遊を
包む身持ら子孫人お所
其豊々のあふ産物の中
稼きたる貴きもの米穀
又

硯布砥石石灰長濱糸
樂陶器及び茶墨の表
沙瀑布朽木塗物蚊帳鍋
釜漆布鮎や雨の魚田
水魚干勢田規
東山道に才二番の濃

海なき平地ひらち、小こ東あづまの
山やま深ふかく、惠めぐみ奈な山さん鷹たか巢のこ杉しん
拾ひら山やま越こ前まへ花はな弾だまと信しん濃のう
地ち界かいを接せつし西せい見み
近ちか江えと隣りん山やま下しもりて
伊い勢せ地ち下しも近ちかき多た度た山さん小こ

あきき下しもり下しもえり養やう元げんの
湖うみに御ご方かたに音ね我われささるささるる下しもり
ひひり下しもりお井いき尾お張はりを
冬ふゆ河がわ下しもり界かいして原はら
水みづ田た下しもりお河がわく木き曾そうより
来きる本もと名な川がわ下しもり花はな弾だま弦げん

日本書紀

と如川合流一洲股川や
大垣川千派を分ち國内
と蜘蛛の網よりあほ志けく
充ち目たりたる枝の末ハ
尾張の界を徑めぐりて
伊勢の海へと流き入る海

股川の上流は厚見郡の糸
原と岐阜ととやけく南に
の一國一國を爰接と枝は
人口を数ふと五十六萬
六千余山林田畠豊なり
く五穀系綿と生す

山手を金銀銅鐵にして
南を自然の中正なり圓風
炎を以て人をもく多く
多のぬち地より出た
美濃紙生糸の糸方
糸綿絹也産玉より美の

丹物也産田布陶器是也
寺の産物なり
中三死彈え山國を海
部一風の持たつ西小越
前加賀越中。南を美濃小
東を信濃とる又けく

四方山每多鶴、硫黃、鎗、嶺、錫、杖、雙、白、木、岳、山、園、其、中、見、其、長、山、所、謂、龍、之、脊、中、也、音、も、高、き、土、地、也、南、方、濃、地、之、流、也、出、る、久、保、流、也、

北の方越中富山の海へ入る、神通中田の二川、此水の源、國中より蔓りたる中央、其名を高山と云ふ地、園、其、似、合、ぬ、勢、の、集、の、市、園、其、人、口、八、万、余、也、と、台、間、

の土地たつまに寒暑もつと
不^ふ正^{せい}しく人氣も都て愚^ぐ
直^ちあるま其^ま官^{くわん}轄^かも隣^{りん}の
信^{しん}濃^{のう}の飛^ひ摩^ま縣^{けん}廳^{てい}もそ^そ五^ご穀^{こく}
熟^{じく}ら^らに產^{さん}物^{ぶつ}も材^{ざい}木^{ぼく}多^たく
抄^{しやう}紙^しも銀^{ぎん}銅^{どう}綿^{めん}燭^{しやく}硝^{しょう}石^{せき}

彈^{だん}弓^{きゆう}及^{およ}び火^ひ薬^{やく}子^し油^{あぶら}
糸^{いと}四^し信^{しん}濃^{のう}ら飛^ひ弾^{だん}よりも
糸^{いと}月^{げつ}又^{また}糸^{いと}高^{たか}き一^{いち}大^{だい}國^{こく}龍^{りゆう}乃^{なり}
脊^せ骨^{こつ}の正^{せい}生^{せい}の中^{ちゆう}日^{にち}本^{ほん}一^{いち}の山^{さん}
國^{こく}も四^し方^{ほう}を包^{つつ}む十^{じゅう}ヶ國^{こく}
北^{きた}を越^こへず其^{その}西^{せい}を越^こへず

日本國志

中^{ちゆう}尾^び浮^ぶり^り美^み濃^{のう}の^の國^{くに}南^{みなみ}
^ら夫^こ河^い幸^{ちゆう}江^{けい}駿^{しゆん}河^がを^をこ^こ
^らり^り地^ちを^を接^{せつ}し^し東^{とう}の^の方^{かた}を^を
^あ甲^{かう}斐^ひ武^ぶ藏^{ざう}之^のを^を加^かつ^つ上^{じやう}
^の野^の也^や其^{その}境^{かゝ}か^かえ^えし^しみ^みな^な山^{さん}
^し孰^{じやく}を^をえ^えし^し嶮^{けん}の^のぬ^ぬを^を

あ^あく^く一^{いつ}た^たひ^ひ境^{かゝ}り^り入^いる^るを^を
^を壺^こ中^{ちゆう}の^の天^{てん}地^ちふ^ふあ^ある^るを^を
^く國^{くに}内^{ない}往^{わう}來^{らい}の^の大^{たい}道^{だう}し^し木^き
^を曾^そ路^ろを^を始^しめ^めて^て棧^{せん}橋^{きやう}を^を掛^か
<sup>渡^{わたり}したる多^{おほ}く^くを^を東^{とう}と^と北^{きた}と^と
^ひや^やる^るを^を河^がや^やう^うと^と其^{その}</sup>

山々大嶽を横嶽三階
野能山奥大石部嶽一駒
ヶ嶽素倉大嶽常念嶽
穂高烏帽子也屏風嶽
腋黒鼻茶所嶽大日嶽
也姨控山飯成山小和田峠

釜澤銀ヶ嶽大倉之倉
白峰山極絶之をぬ浅間
山嶽夏之雪久る戸隠の
山々郷音々々流の音ナツル
山々降り落ち降る水々
次身々々集々々々西々

向^{むか}ふ^らる^る東^{あづま}曾^その^の川^{がは}南^{みなみ}ふ^る
下^{した}流^{なが}る^る川^{がは}は^は姫^{ひめ}川^{がは}
や^や北^{きた}流^{なが}る^る川^{がは}は^は龍^{りゆう}
摩^まの^の水^{みづ}お^お人^{ひと}を^を信^{しん}濃^{のう}川^{がは}
の^の水^{みづ}も^もあ^ある^る城^{しろ}後^ご流^{なが}る^る
新^{あらた}浮^{うき}の^の海^{うみ}へ^へ向^{むか}ふ^らる^る流^{なが}る^る川^{がは}は^は八^{はち}

本^{ほん}曾^そと^と信^{しん}濃^{のう}の^の二^に川^{がは}を^を類^{るい}す^す
北^{きた}流^{なが}る^る大^{おほ}河^{がは}は^は坂^{さか}東^{とう}左^さ郎^{らう}
と^とお^お並^{なら}び^び之^のを^を稱^{しょう}し^して^て本^{ほん}
邦^{ほう}の^の三^{さん}大^{だい}河^{がは}と^と申^{まう}す^すあり^{あり}
南^{みなみ}に^に流^{なが}る^る天^{てん}龍^{りゆう}の^の北^{きた}流^{なが}る^る源^{げん}
を^を祿^{ろく}訪^{ぼう}の^の湖^{うみ}周^{しゅう}通^{つう}三^{さん}里^りの^の湖^{うみ}

よそ氷まらぬ冬の日を
人の往来の便より月より
名所より更科山々の姨捨
小田毎の月駒を相乗治王
月也温泉の名おも教おほ
一國都をば人口七十四

万一千余北よよりえびさる
ゆと陰氣の深きをみしゆく
人の急事預も健より日本一
此よりた風なるまきくあゆま
の官轄を西と東より二分
して東のふかれ郡を厚

と筑摩乃二川の出合よ何と
里に長野縣西に四郡あり
彈一圓を犀乃水上に本
筑摩縣に犀ありと合を
之と支配せり此に産
物と諸材木蕎麥は麻綿也

小坂原白苧烟草より糸紬
五千上野是より大信濃
に隣る山國より海あり
此の地は十番に鴨足
葉はくく南を武蔵北に
方越後岩代に地を隣る

東に方より下總へ下野に
 地を界しし山嶺
 土地をく坂東太郎乃利
 根川の水源國中不充滿を
 山に一二を数くたむ少少を
 榛名中より妙義白狐也

薬師山嶽あり赤城西乃
 方雄水峠も木曾海乃信
 濃の國に界しし三國峠
 と名をゆたると山を其の數
 三つあるま其が山脈を
 なるまど中を其後も當ふ

と北岩代と此國界東より
ある、當國と岩代下野三
國に於てちりちりして
西方ある方も信濃地を越後
の國と少南の界を分つ所
なり。按も此處の人口は四

十九万七千人の多きを以て凡
強をもてして一休暖氣の土
地、一々菜の未採得く
生、茂らむ。吞飼乃業の世、
狩中、群蟻種、生るるや絹布
類盛、仕出、世に於て

上州物とそ稱えらる。其の
外は其産物も佐那の白茅
と布、漆、其風俗も信州と
云ふ方々もしくも云々云々
鴨足の葉の根りあふりた
る土地よりこのけく右手の三

郡邑樂り新田山田を
管轄するも下野の都賀
の郡乃朽木縣北に余乃
郡ナリも國に中央より南
葉乃左より高崎のとき
好ふ所の所より云々云々



郡馬縣廳の支配あり。
 下野十一乃海あり。
 西南を。上野界山
 おりく。黒旗高の原を須
 が山嶽北を。崎立たり。
 乾の方少々日光山を重なり

峯^{たけ}の^{なか}中^のに^ああ^ら流^るる^ま重^{たか}敷^きは
 小^こ水^{みづ}き^らる^まま^まと^と跳^い立^たる^まる^ま落^おち^る
 霧^{きり}降^りの^たた^た乃^の下^の流^りを^あ布^ぬ
 引^ひ川^が三^{さん}里^り四^し方^はの^たた^た池^いに^あ眺^{なが}む
 女^{むすめ}双^{ふた}の^ち中^の禅^{ぜん}寺^じ流^{なが}れ^るま^ま末^{すえ}
 丈^あや^や川^が國^{くに}内^の原^{はら}元^{もと}亦^{また}お^おほ^ほく



那須なすに林麓はやしなり。野原の原はら西にし國くに此こゝ生なまる。小標せうひょう茅原ちやうげん西にし方かたも土地ちち開ひらき。諸水しよすい数かず派はい小原せうげん南みなみ方かた向むかふ。下總しもづもののみ不利ふり根川ねがわ小流せうりゆう是こゝののみ。

東ひがし方かた行ゆく。冬ふゆ常陸しやうりくなる。那須なす河川がわと名なある。海うみ方かた八やち万まん一國いつくにん人口じんこう四十萬しよじゆばん。那須なす源げんくし。土厚つちあつく。草木そうぼく盛さかなり。生なま繁はげなり。民俗みんじゆ淳じゆんき。やうなまき。冬ふゆ内うち方かた濁にごをと。交まじへ。祠ひらつ。

日本國志卷三

ひし鄙びたり。其の官轄を
ひし 東あづま 西にし 分わか れて東あづま の宇都うと 郡ぐん
みやま 宮縣みやま 東あづま 京みやこ 以もつ 小こ の繁はげ 華はな 此こゝ
ち 地ち 西にし を上うへ 野の 三さん 郡ぐん を加か へ
と 杉すぎ 木き の支配しはい をあま 銅あがね 漆し
ま 絹ぬい 麻あし 紙かみ 日ひ 光みつ よりそ 木き 地ち と

昔是は中なかつ 土つち の產物うぶもの 也
その 其その 中なかつ 七しち を磐いわ 城じやう の國くに 西にし 邊へ
の の方かた 方かた 阿あ 武ぶ 隈かみ 川がは 於お 於お 水みづ
を 其その 岩いわ 代しろ より流なが れ 流なが れ 流なが れ 流なが れ
當 當國たうこく 小こ の界かゝり を分わか ち 中なかつ 間ま
を 又また 岩いわ 代しろ を通とほ り 過か ぎ 禁きん

玉く遊ぐ一す先再ひこの
地の内ふ今も山能官を流す
けき渡瀬川と落あふく
東へ向く海ふ入る是を
陸前と云ふ界あり渡瀬川
のいより高く峙つ蔵王

岳君が恵をそあ忘の山もさ
侍ふそ温泉水と死
出る竈崎也國能南乃一園
そ下野者侍より界して
山々おほく立糸ひ白坂
こゝへく白川の関も昔乃

白川
廿六

関の跡本邦関の音初也
東より都々海岸より磯
うら浪の音このく波四も
川の敷お母き中より一と
南より難き行くを常
降ふる久慈の河水此水

北由國十三郡の内南の端此
白河の郡此内乃西のより
アアアア交々も岩代の箱島縣
の支配少く北此端ある二郡
と宇多の内より中村
水の音も降前宮城縣

廳管轄一。中子砂り
十郡。そ乃ち當國本縣の
石前縣の支配あり。さうく
國産此品。白河縮緬
磐城雲丹。白石紙子。三
本。約千。ぬ牛馬の。おぼ

北。是より後。磐石
城。岩代。陸前。と又陸中。と
陸奥。ら。五穀豊饒地。味厚
き。陸奥。や。名け。く。廣大の
一。六。國。を。考。す
戊辰年。し。め。く。ち。る

五ヶ國は其の... 今より
あるは... 其の...
數より... 今又以前乃一國
た... 其の時... 眞を揚
けく大畧を... 知... せん
其... たり... せん

二百六十萬二千... 少何...
人... 其の... 似の...
偏屈頑固... 其の...
地... 其の...
多... 其の...
つ... 其の... 常陸

日本書紀卷之三
小續きし海濱ゆえ外の
地よりいふに緩く人氣も常
陸ふや似たり其餘は水
りしをうつゝくお入る海
雪深くさ地る良もま
と鄙屈めく言詞も卑劣

古くも鼻小の
多きく
入る岩代山國も海
國は其の十二西も城後
り地を海をり通も後
え山の上六十里城又さ小

十里越たふらふて。鞍馬
山くまふらふび。持の嶮
さ持想もろく。南の先
よと下これとてえん。た
山續き。持を色よる。内
へららみ。て國の内。地を
あ

ほり。のけく。山脈
大熊布。了安達山。信夫を布
子和尚山。山脈の。東西
ぬる平地。おほく。東
五郡。を磐石城。なる。白川
あ。を。八。を。福。名。の。糸

の支配あり地勢亦お
開き中を舟に阿武隈川
信夫原也安達原野中
の清水流く温湯
須川二本お壽き
福島のほきまふ町を

原をまき置きたる所を
平山より西に若松縣
猪苗代の湖也只見の川
鶴沼川の水は合て二
とある越後地へ流る
てゆくも會津川水の

万代山峯より温泉水湧き
林麓より塩の白泉の温泉水湧
き浴の効何るのみくも汲
く日々食用の塩を製
して居るを天津
御神に神わざく又松

少くも温泉水あり土地を一
体守りて雪消きこと
甚しく其産物を福
島絹信夫摺絹人冬也
漆蠟燭梳と盆
さく九番目を陸前を

全國都く山おほく西を
羽前小界して志脈陸續
引つまきさるゝら就の腰
骨少く中まへん高き尾川
岳南の方を阿武隈川
磐城岩代國界を東を一面

左平海牡鹿柳生の二郡
海平つまへ大岬南小
曲り海灣とありし地方の
濱手少を大崎小嶼数百
千何れもせん古松枝を垂
き曲洲環浦奇々怪々天



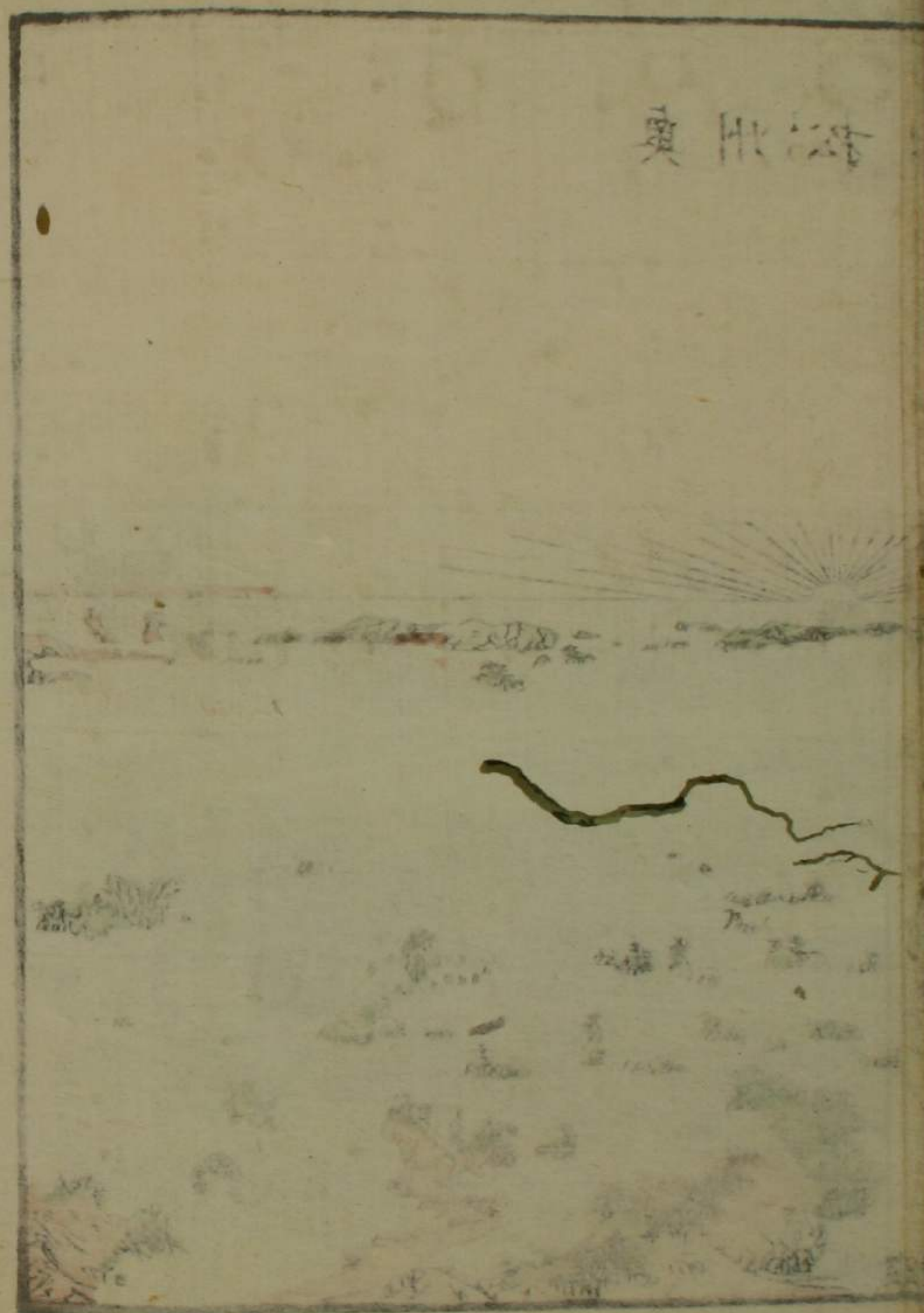
下無双の松島とく。これ後
 来りたちり。生たも来りて
 見ん松崎と。趣も道理
 つもてん。みても見あぬ
 心地。画りて。畫けり
 日。た。松名めや。

奥州松嶋之圖



来りたり。たちしり。生たも来りて
 見ん松嶋と。海も道程
 心地。画りて。画けり
 日。た。松嶋也。

奥州松



さききとて日本三景の第一
とて持賞しけき金吾花山
そ其沖小獨り立つる島
の山持たれ外名所跡跡
お屏のま中まらしむる
る小鶴池也躑躅が玉天

平寶字六年小達てたる
壺石研より多し其乃古城
の跡ありあり川入るる名取廣
瀬川より川より居合よりく
海より流る江合川廣瀬
の川は南をそ其の都弘

青葉山仙基より小野
其の市宮城の叙の都
より江合川より南の方九
郡を隣の磐石城方より北乃
四郡を管轄し川より小
の五郡を管轄し川より小陸

中江。水澤。船の支配。た。ま。き。
仙臺。細紙。布。干飯。奉書。
其。紙。の。る。お。金。海。鼠。埋。
木。於。諸。村。是。ま。ま。の。産。
物。也。
十。子。陸。中。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。

山。柳。舟。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。
弱。形。月。の。山。仙人。峠。茶。所。
峯。早。池。神。山。姫。外。山。小。
の。方。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。
舟。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。
海。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。

山はの北に端の北よ山
國に西をさる陸前より
續きして山脈の脈
の勢引つるある風
激して大濤の躍る物
がことごとく其數あけて

彈とれは氷後の國に
界なり中千島の西
駒山まる山猪無門駒岳を
東よを岩就島山奥に田土
とく名もさる北に陸奥
界して両端実出中凹み

角の形よりさへ似たり。石の
角は一本を鹿角郡と名
をつけ、山は数に立並び
金銀銅鉄植月山芦柄花
部八富山羽後り流る能
代山川は水立るに河り其

管轄しおのつゝ羽後の秋
田は穀産を林は余り南
水より二分して小六郡を
盛岡の岩手縣乃支配す
南は方の三郡と陸前
國と郡をたし管轄するを

日本國書紀卷三
當分の磐石井郡此水澤
縣さうて東手に此一面を海
の我らみて川おほし北上川
乃河の水なり 高き千石川を
衣川伊ふきと和加川豊澤
川豊澤川此水よりおほ

数ヶ所の温泉あり 此を
夫より名を得たり 此を
此よりいふより名馬を
いふを土地より尾駁の牧
や奥の牧志野の牧をい
ふをいふ牧より出づ

其の馬の數も年々數
多近諸國よりたゞ賣
り捌く。その國の産物を
南部紬や縮布、衣川を
名物の鮭、子籠の塩、
水精銅、披杉、又馬の

尾といふと、おの
矛ナ、陸奥、東北、乃
の端に國三方海と對岸
を、迫門を隔て、北海道
む、またたき、二股、分
て、出、大岬、中、海、湾

い〜〜廣く無数の小をめぐら
 り。延び。東北岬。北郡。小
 延び。出く。西折。西の岬。ハ
 三馬屋。外。濱。小連
 其。海。湾。の。八。代。の。袋。の
 底。青。森。縣。南。小。國。村。

また。小。海。乃。の。松。前。と。
 保。之。を。管。轄。す。と。申。す。
 羽。後。も。陸。前。も。界。を。隣。り
 山。國。の。内。部。小。連。り。て。
 雲。々。と。從。年。ゆる。岩。城。山。津
 輕。富。士。と。是。を。り。

東の岬より崎つる火煙ふ
き出せ焼山より火煙ふ
火山の一つあり川より越北津
輕川温湯を青森より東
濱の方より安佐虫あり
南に山あり碓関よりたても

名湯ありさきく此國に在
物そ津輕丹土や津輕石
珀舍利石津輕石
東山道の中十二第十三
羽前お後には一ヶ國は是
またも出羽と唱く一國の

地をそありしを辰年小
二つ一折る南手に四郡
羽前おの方ハナ郡を我
羽後といふ二玉都を我
人口を八十七万石人余其
風候を三陸なり似実如

智もあり健け方あり土厚
くして穀実のり冬も多
もやゆく雪深し羽前の
國も岩代のおりあたりに
東の方山脈をそりて陸前
と奥州中を合せ地を羽後

西より後より海をうけ西
 南より後より内陸をうけ
 あり山おほく積りて高
 く世より月山羽黒湯
 殿山川をまげり夢り
 中より名ある小田黒川寒

川江川やをほろけ川日井
 ありさへや降るてふ美たき
 ありあり最上川中川の落
 あり一つあり一坂田川
 川より羽後と此界より北
 の川より酒田縣外ありて

尚ふの海を以て田河一郡と
羽後乃能海を支配する
其川上の最上郡村山郡
置賜の内に分るる合
管轄するを山形秋田の
隅の置賜の地を以て米

澤より立つ置賜を以て置賜
の地を支配するを仰ぐあり
羽後を以て置賜を以て
く。東を陸中山つぎ山
手森吉野を以て保呂
波高屋山殊り高き

鳥海山中より大平山の
方地を陸奥より相隣り
矢張り森山池の其五國
并長方形の東の隅りも
南の隅りも、其西小
浪高き北の海海平

さし出づる田原の根もと
塩やの地狭ふく、軟糸きこと
めたる半島、向ふ地方の
船川の口を緩く一棧乃
海水つりて、其の中潮を
たもる、即河岸より

生坂高津水島を
風本山に申り換す新
山や山又山の敷一を
能代小吉川國に生の中
戸島川戸名島の川乃川
久保田より一市を秋田

縣廳のあり所は
の各縣を領海を
五七郡を陸中
鹿角郡を加へ
その國に産物として錫銀鉛
蠟漆秋田紫蘇紫麻油の

紙や麻の皮青々々々
の花米海袖秋田織方り

相丹中郡相丹

小徳六

瓜生氏日本圖書卷三

瓜生三寅著

第三大區三ノ小區
四番甲一番地

明治五年壬申十月新雕

東京芝大神宮前

名山閣

和泉屋吉兵衛

不

五山閣

東原多大軒官前

即欲五羊壬申十月月藤船

秋生坐三黃卷

四番甲一番
本三天國三

